

<資料 3>

平成 30 年 8 月 27 日
定例記者会見資料

武藏野市将来人口推計（平成 30（2018）年～平成 60（2048）年）【速報版】

<人口の現状>

総人口

総人口は、昭和 62（1987）年に 137,729 人に達した後、平成 9（1997）年には 132,525 人まで減少した。その後、再度増加基調に移り、平成 30（2018）年には 144,902 人となっている。

性別年齢別人口

性別年齢別人口は、平成 30（2018）年において、男女ともに 40 歳代人口が多く、10 歳代人口が少なくなっている。また、高齢になるほど、男性人口に対して女性人口の比率が高くなっている。

また、10～14 歳人口に比べて 5～9 歳人口が多く、5～9 歳人口に比べて 0～4 歳人口が多くなっており、ここ 10 年間ほどで出生数が上昇していると考えられる。

日本人人口

日本人人口は、総人口と同様の傾向で推移しており、昭和 62（1987）年に 136,637 人に達した後、平成 9（1997）年には 130,308 人まで減少した。その後、再度増加基調に移り、平成 30（2018）年には 141,864 人となっている。

外国人人口

外国人人口は、昭和 58（1983）年には 863 人であったが、その後増加し、平成 5（1993）年には 2,251 人となった。その後、約 20 年間ほぼ横ばいで推移した後、再度増加基調に移り、平成 30（2018）年には 3,038 人となっている。

前回（平成 26（2014）年時点）の将来人口推計と実績値の推移

国立社会保障・人口問題研究所によれば、武藏野市の人口は緩やかな減少期にあり、継続的に減少していくという見通しとなっていた。一方で、武藏野市では、独自推計によって平成 26（2014）年以降も人口は増加するという見通しを立てている。

その後の実績をみると、平成 26（2014）年に武藏野市が立てた見通しをすら上回る速度で増加している。基準人口から 4 年間が経過した平成 30（2018）年度時点での乖離状況は、2,180 人（1.5%）の過小推計であり、当時の見通しとは異なる状況が生じている。

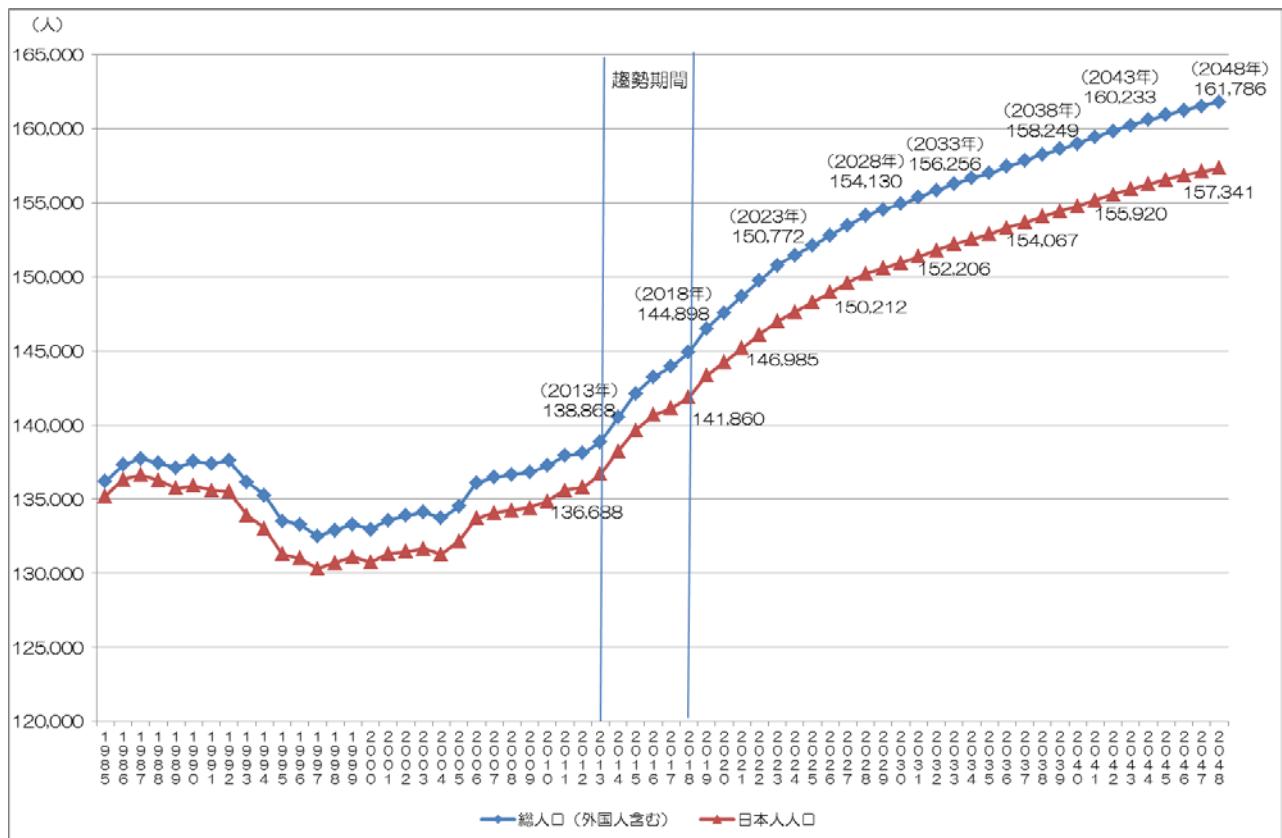
<推計結果>

総人口及び日本人人口

平成 30（2018）年推計においては、趨勢期間を平成 25 年（2013）以降に設定し、日本人と外国人を分けて推計した。

総人口は 5 年後の平成 35（2023）年には 150,772 人と 15 万人を突破し、推計最終年次の平成 60（2048）年で 161,786 人となると見込まれる。

図表 1 将来人口（総人口及び日本人人口）



注釈) 各年 1月 1日時点の住民基本台帳人口。

外国人人口

武蔵野市の外国人の推移については、10 年間の人口拡大期の後、20 年間の人口横ばい期、5 年間の人口拡大期を経て、現在に至っている。平成 30(2018) 年には 3,038 人であった外国人は、平成 60(2048) 年には 4,445 人になると見込まれる。

昼間人口

今後も住民登録日本人人口に対する昼間人口比は低下していくものの、住民登録日本人人口が増加することから、昼間人口は微増で推移し、平成 57 年(2045) 年に 167,066 人に達すると見込まれる。

世帯

平成 27 (2015) 年国勢調査を用いて、性別年齢別の世帯主率を作成し、将来人口に乗じることで世帯数及び類型別世帯数を算出した。国勢調査における世帯数は増加基調にあり、昭和 60 (1985) 年に 51,434 世帯だったところ、平成 27 (2015) 年には 73,960 世帯となっている。

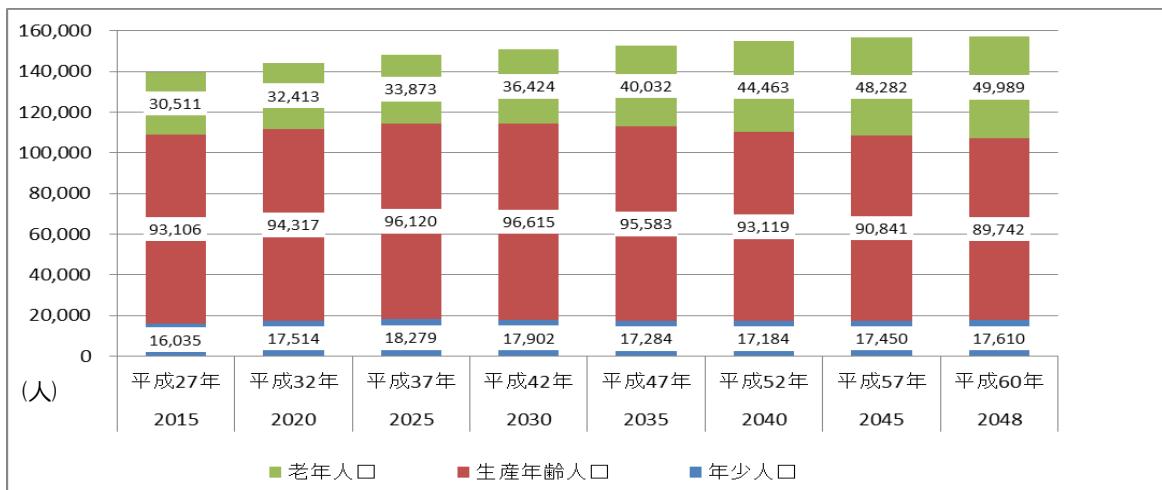
今後も世帯数は増加を続けて、平成 57 (2045) 年には 82,704 世帯になると見込まれる。

年齢3区分別人口

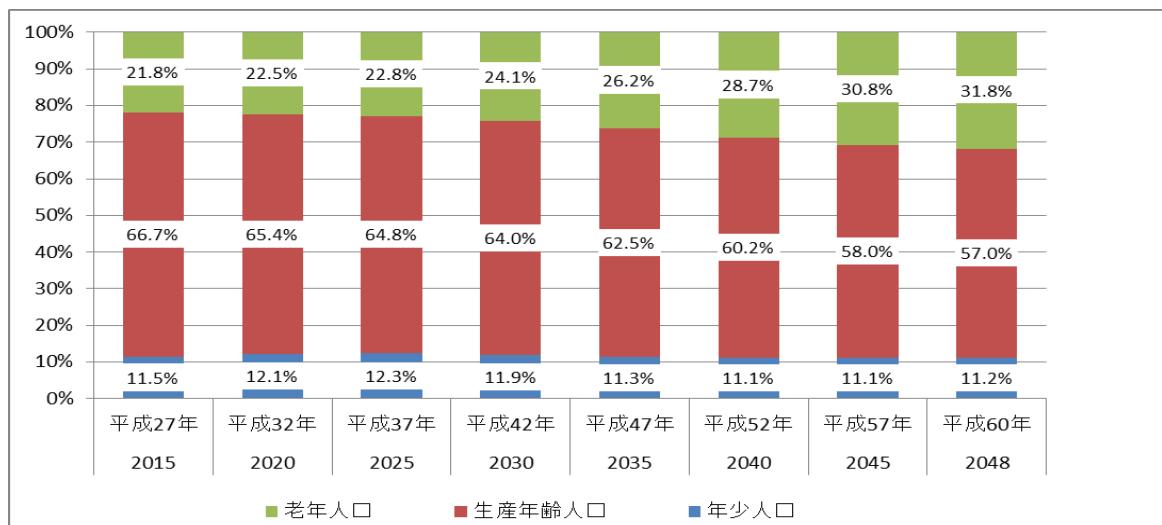
老人人口は増加傾向が続き、平成 27 (2015) 年には 30,511 人 (21.8%) の老人人口（比率=高齢化率）は、平成 60 (2048) 年には 49,989 人 (31.8%) に達すると見込まれる。一方、年少人口は、平成 27 (2015) 年の 16,035 人 (11.5%) から、増減を経て、平成 60 (2048) 年には 17,610 人 (11.2%) になると見込まれる。また生産年齢人口は、増減を経ながらも期間全体を通じては減少傾向にあり平

成27（2015）年の93,106人（66.7%）から、平成60（2048）年には89,742人（57.0%）まで低下すると見込まれる。

図表2 将来年齢3区分人口



図表3 将来年齢3区分人口比率



図表4 将来年齢3区分人口・比率表

(人) (比率)	2015 平成27年	2020 平成32年	2025 平成37年	2030 平成42年	2035 平成47年	2040 平成52年	2045 平成57年	2048 平成60年
老人人口	30,511	32,413	33,873	36,424	40,032	44,463	48,282	49,989
	21.8%	22.5%	22.8%	24.1%	26.2%	28.7%	30.8%	31.8%
生産年齢人口	93,106	94,317	96,120	96,615	95,583	93,119	90,841	89,742
	66.7%	65.4%	64.8%	64.0%	62.5%	60.2%	58.0%	57.0%
年少人口	16,035	17,514	18,279	17,902	17,284	17,184	17,450	17,610
	11.5%	12.1%	12.3%	11.9%	11.3%	11.1%	11.1%	11.2%
計	139,652	144,244	148,271	150,941	152,899	154,766	156,573	157,341

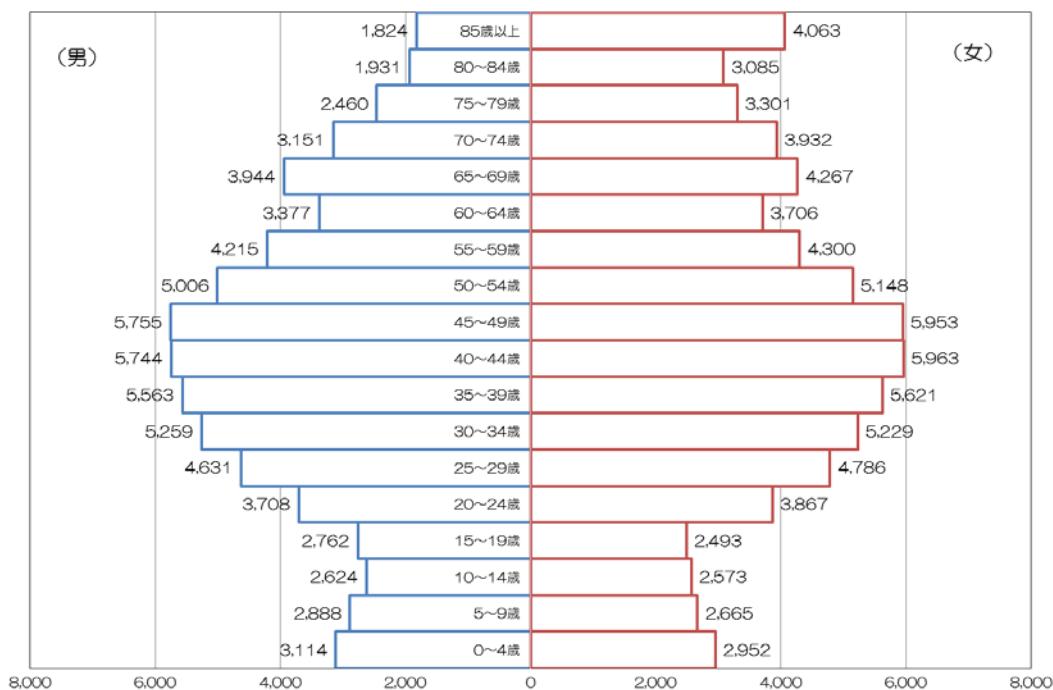
参考) 国立社会保障・人口問題研究所における平成29（2017）年推計（出生中位（死亡中位））によると、平成60（2048）年には、全国としては、老年37.4%、生産年齢52.0%、年少10.6%になる。

性別年齢別人口

平成30（2018）年時点では、男女ともに40歳代が多く、10歳代が少なくなっている。また、10～14歳に比べて5～9歳が多く、5～9歳に比べて0～4歳が多くなっており、ここ10年間ほどで出生

数が上昇していると考えられる。

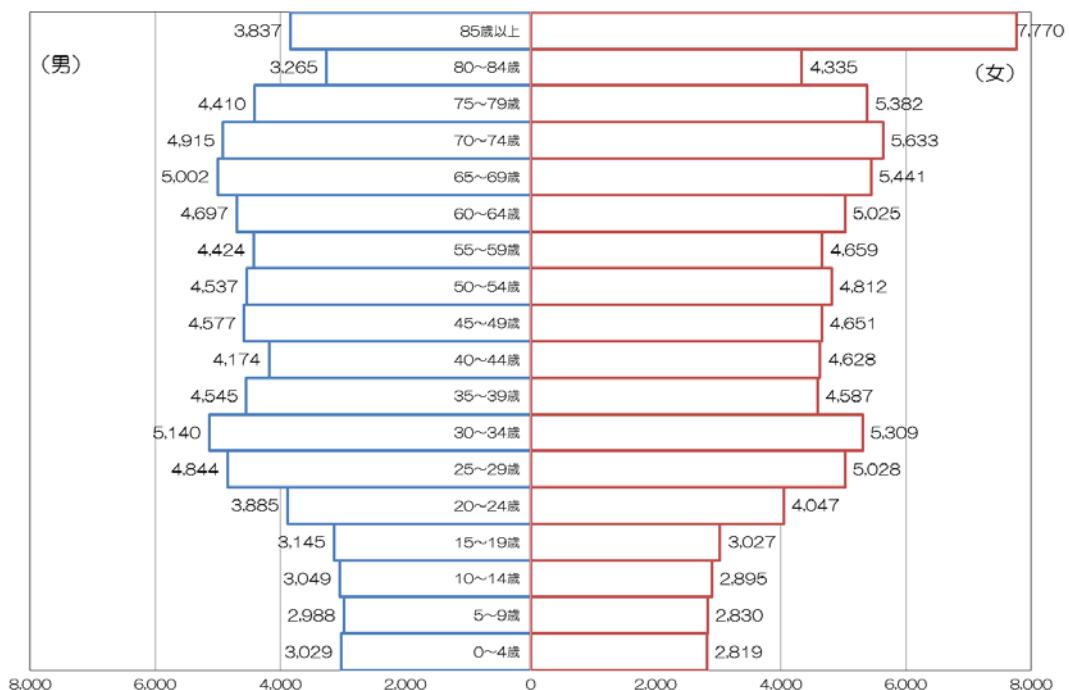
図表 5 5歳階級別人口ピラミッド（平成 30（2018）年）



注釈) 平成 30（2018）年 1月 1日の住民基本台帳人口。日本人人口。

30 年後の平成 60（2048）年には、平成 30（2018）年時点と比較して 60 歳代～70 歳代の人口が多くなっている。また、85 歳以上の女性が多くなっている。

図表 6 5歳階級別人口ピラミッド（平成 60（2048）年）



注釈) 平成 60（2048）年 1月 1日の住民基本台帳人口。日本人人口。